

令和4年度生徒指導サポート実践校 「特別活動の取組事例」

学校名	三次市立十日市小学校	校長	古本 宗久	生徒指導主事	吉羽 芳晴
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『自伸会活動』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成	社会参画	自己実現
「自己肯定感・他者からの評価」 2	「主体性・積極性」 1	「高い志・使命感」 3

取組のねらい

児童が自らで提案したマニフェストや学校が抱える課題に対して、どうすべきか・何ができるかを考えることで、主体的に活動に取り組む。

取組の具体的内容	取組の創意工夫 『関わる力』
----------	----------------

本来なら、児童会行事として様々な活動があったが、コロナ禍において児童が集まる活動ができない。

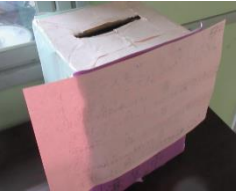
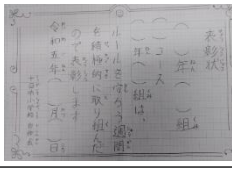
放送を中心とした活動に

自伸会担当の先生を中心に、「自分たちがどんなことをやっていきたいか」を協議

児童提案の様々な取組を実施

活動例) ルールを守ろう週間
 児童会から『ルールを守ろう週間』を提案。
 ・児童会からいくつかの項目をピックアップ
 ・各学級でどの項目を頑張るかを選択
 ・各学級で取り組む

・活動の結果をボックスに投函
 ・投函された内容を全校に放送
 ・各学級を表彰する

【十日市小学校の課題に合致した取組み】
 十日市小学校 i-check より
 ・自己肯定感が高い・・・77.5
 ・他者からの評価が低い・・・53.2

↓

自伸会から学級・児童の取組みについて放送
 自伸会の活動について、児童・学級から意見

互いに認め合う
 機会の増加

自伸会担当の先生を含めて、放送の前後で話し合い。活動内容だけではなく、

- ・なぜ、この取組をするのか。
- ・自分たちがどんな姿勢で取り組むのか。
- ・そのためにどんなことに気を付けるのか。

など、技術面・精神面ともに具体的に話し合う。

児童が明確なビジョンをもって取り組むことが出来る。



取り組む活動を選択できることで

- ・活動に対する意識が向上する。
- ・各学級の実態に合わせて取り組むことが出来る。

双方向性が意識された活動

- ・自伸会から学級へだけでなく、学級から自伸会に意見する場を設けることで双方向性をもった活動になる。
- ・さらに学級からの意見に、自伸会が答えることで、放送の中でもつながりを意識できる。

ルールを守ろう週間以外でも

- ・自伸会が明るく楽しい放送を意識しているので、聞いていて楽しくなる。
- ・各学級や児童に取り組んでもらったものを掲示し、見える化を実施。



取組の成果と課題

- 自伸会に放送で取り上げてもらったことで、児童たちが活動に取り組む意識が向上している。そのため、自伸会のボックスに投函される意見も増えてきており、中には「6年生になったら自伸会に入りたい」という意見もあった。
- 学級や児童から肯定的な意見が上がってくるようになったことで、自伸会の児童も活動に取り組む意識が向上している。
- 様々な取組みを行っているため、一つ一つの活動内容が定着しているとは言い難い。